

第4回 医療のまちづくり検討委員会

【問合せ】保健課 ☎773-6811

7月4日(土)、「まちづくり」と「医師確保」をテーマに第4回医療のまちづくり検討委員会（以下、委員会）が開催されました。

「まちづくり」について、市は交通政策などの説明を行い、ゲストスピーカーの六日町地区地域づくり協議会、女子力観光プロモーションチーム、筋力づくりサポーターの会のみなさんからは取り組み状況をお話しいただきました。「医師確保」については、新潟県の考えが委員から説明されました。その後、それぞれのテーマについて意見交換などを行いました。（以下、一部抜粋・要約）

まちづくりについて

市の交通政策

市では路線バス、市民バスのダイヤなどの改善を図っていますが、乗り継ぎなどなく自宅から目的地まで移動できるサービスの提供は難しい現状です。介護保険課などが主体となり、ボランティアを活用した送迎ができないか検討をはじめています。

六日町地区地域づくり協議会の取り組み

健康づくりと福祉増進のため、保健師の協力を得ながら、地域での活動に取り組んでいます。医師への負担軽減のためにはこのような予防医療がすごく大切ではないかと思えます。今後は参加者の集まり方や交通手段なども考えていく必要があると思えます。その他に、観光客へのお茶出しから始まったボランティア活動がサロン活動へと形を変え、ごみ拾いや草取りなど、継続して活動が行われている地域があります。

南魚沼市女子力観光プロモーションチームの取り組み

市内には温泉が13か所もあり、その中には環境省による国民保養温泉地に指定されているところもあります。それぞれ泉質や効能も異なることにも着目しています。地域の宝物である温泉を利用した観光や住民サービス、医療との連携ができればよいのではないかと考えています。

南魚沼市筋力づくりサポーターの会の取り組み

市内110か所でレインボー体操を実施しています。体操を教えることで、地域で活躍することができ、自分自身の介護予防にもなります。

委員からの意見など

- 路線バス、市民バスに加えてオンデマンド交通（予約や要望があった時に運行する交通システム）のようなサービスについて、交通弱者や保健医療と結びついた目線から検討を行い、改革していくべきではないか。
- 新型コロナウイルスに関連して、地方へのU・Iターンなどが注目される中、温泉療養やすばらしい自然・食事などが、医療のまちづくりの核の一つになると良いのではないか。
- 地域づくり協議会や筋力づくりサポーターの会などの活動により、地域の人にさまざまなサービス

が行き届いていることは重要であり、今後もまちづくりの核として活動を継続してもらいたい。

医師確保について

新潟県の考え

このような委員会を通して、自治体と病院が主体的に検討を進めていることに敬意を表したい。これを受け、県でも検討を継続しながら市と一緒に、地域のために取り組んでいくことを考えている。

委員からの意見など

- 医師の確保が難しく、多くは非常勤医師で担っているという状況は変える必要がある。寄附講座^(※)によって頼りがいのある、リーダーシップを持った医師を確保することで、その医師をめざして若い医師が多く来るようになっていこう。
- 市が取り組む寄附講座を核に、新潟県から医師派遣の支援を得ながら、指導医が多くいることを活用した専攻医の研修システム構築などの体制づくりを行う必要がある。しかし、これには非常に時間がかかるため、さまざまな手段を考えてすぐにスタートさせる必要がある。
- 若い医師にとっては都会が魅力的と思われるが、地方の診療はやりがいがあり、地域の人たちにとっていかに役に立つことか、さまざまな方法で伝えていきたい。
- これからは、高齢者の看取りなど、在宅医療の切迫した課題などに、自分の専門でなくても興味を持って取り組む医師が必要になるだろう。

(※) 大学への寄付金により特命教授などを招いて開設される研究・教育のための講座。地域医療に情熱を持った医師が現地で診療に従事する講座により医師不足にも寄与することを目的としている。

詳しい委員会の内容や、過去の議事録などは、市ウェブサイト（「医療のまちづくり検討委員会」で検索）をご覧ください。

